

平成30年度 こころの健康講演会
 『死にたい』と『生きたい』の狭間でできること
 ～身近な人の死を防ぐために～

岡山市こころの健康センターでは、毎年、市内の保健・医療・福祉・教育等関係機関の方々を対象にこころの健康講演会を開催しています。今年度は平成30年12月21日(金)にピュアリティまきびにて、筑波大学医学医療系教授の高橋祥友先生をお招きして、自殺予防に関する研修会を開催しました。

自殺で亡くなる方はピーク時に比べれば減少してはいるものの、依然として毎年2万人を超える方々が自ら尊い命を絶たれています。岡山市でも毎年100人弱の方、単純計算でおおよそ4日に1の方が自殺によって亡くなっています。このような状況を受け、岡山市では平成30年3月に「岡山市自殺対策計画」を策定し、自殺対策により一層力を入れて取り組んでいるところです。自殺は私たちの誰もが直面する可能性のあるとても身近な問題であるにもかかわらず、誤解や偏見が根深い問題でもあります。そのため、今回は専門家だけでなく、一般の方にもご参加いただき、皆でこの問題について考えることにしました。

当日は、自殺という重たいテーマにもかかわらず、定員を大幅に超える方の申込みがありました。一般市民の方も全体の4割ほどを占めており、このテーマに対する社会的な関心の高さが感じられました。高橋先生からは、自殺予防に関する基礎的な知識をわかりやすく説明していただいたのですが、温かく優しい語り口のおかげで、終始和やかな雰囲気の中で学ぶことができました。講義の中で多くの事例を紹介して下さるなど、すぐにでも役に立ちそうな具体的な内容が多く、講演会後のアンケートでも、とにかく「分かりやすかった」との感想を多くいただきました。短時間ではありましたが、質疑応答でも熱心な意見が出るなど、一般市民の方にとっても支援者の方にとっても実りの多い研修になったのではないかと思います。

来年度は再度支援者向けの内容で企画していく予定です。多くの方のご参加をお待ちしております。



相談のご案内

岡山市こころの健康センターでは、こころの悩みや精神症状への対応について、ご本人やご家族などからの相談を受け付けています。



◆ ご相談されたい場合は、まずお電話ください ◆

〔相談専用電話〕086-803-1274

時間 9:00～12:00 / 13:00～16:00 (土日祝日・年末年始を除く)

◆ 来所相談 ◆

電話相談の内容から、来所相談に来ていただくことが
 適当と判断した場合には、来所相談のご案内をいたします。

岡山市こころの健康センターだより

第10号
 平成31年3月
 発行



岡山市こころの健康センター

〒700-8546 岡山市北区鹿田町一丁目 1-1 岡山市保健福祉会館 4階
 [TEL] 086-803-1273 [FAX] 086-803-1772
 [ホームページ] <http://www.city.okayama.jp/hofuku/kokoroc/>



長期入院精神障害者の退院支援のこと

所長 太田 順一郎

本紙「岡山市こころの健康センターだより」は、平成21年4月に当センターが開設して以来、毎年1回発行しているものです。当センターの活動を、日頃お世話になっている皆様に少しでもお伝えできたら、と考えて、毎年当センターの様々な業務の中から1つを選んでその概要をまとめてお届けしています。当センター開設10年目に当たる今年も、「長期入院精神障害者の退院支援」をテーマに選んだのですが、後から確認してみると、当センターが発足した初年度である平成21年の「センターだより」も同じテーマだったことに気がきました。そのときのご挨拶には次のように書いてあります。「さて、現在私たちの取り組んでいる事業には主に4つの大きなものがあります。その4つの事業というのは『地域移行支援』『自殺対策』『依存症対策』『児童・思春期精神保健』であり、いずれも今の岡山市にとって非常に重要な課題です。その中で最も重要であり早急に取り組まなければならないのが、『精神障害者の地域移行支援』です。」

どうやら開設当初から、私たち岡山市こころの健康センターでは、精神科病院長期入院者の地域移行を、自分たちが取り組むべき最重要課題と捉えていたようです。そして、そのスタンスは現在も変わりません。さて、先ほどのくだりは、以下の文章に続き

ます。「平成16年に厚生労働省は『精神保健医療福祉の改革ビジョン』を打ち出し、『入院中心から地域生活中心へ』というスローガンを示しました。」精神科病院からの地域移行支援について考えるとき、現在でもこの「改革ビジョン」が引き合いに出されることは少なくありませんが、ここ数年の間に精神科病院からの地域移行支援は「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の文脈の中で語られることが増えています。「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」については、つい先日日本精神科病院協会が強い懸念を表明する内容の意見を発表するなど、まだまだ検討すべき余地の大きな概念であり事業です。それでも現在わが国の精神科医療・保健・福祉の目指す方向性が、精神障害を有する人たちが、病院や施設ではなく自分の家でごく当たり前に暮らすことの出来るような地域システムを作る、というものであることは「改革ビジョン」から「地域包括ケアシステム」を通じて変わりないように見えます。

9年前のご挨拶は、次の言葉で締めくくられていました。「社会的入院の解消のためには、法律や制度が変わる必要があります。現在の法律や制度のままでは『地域移行』の歩みは遅々としたものとならざるを得ません。ただ、私たちのこころの健康センターは、現状で出来ることをひとつひとつやり遂げるしかないと考えています。私たちのモットーは『小さなことをコツコツと』です。」

長期入院精神障害者の退院支援を進めています!!

岡山市の精神障害者の入院状況

岡山市こころの健康センターでは、市内の精神科病院と協働し、長期入院精神障害者の退院支援に取り組んでいます。
岡山市には精神科病院が8病院あり、精神科病床数は平成28年10月1日時点で2,666床となっています。平成27年6月末時点で2,204名の方が入院されていますが、そのうち1年以上入院されている方が1,237名と約5割を占めており、何らかの理由で長期入院されている方がまだまだおられます。

そこで当センターでは、長期入院精神障害者が安心して生活できる環境づくりを目指して、地域体制整備コーディネーターを配置し、入院中からの支援と退院後の支援を行っています。



出典 入院病床数：医療施設動態調査
入院患者数：精神保健福祉資料

退院支援を必要とする長期入院精神障害者を把握するため調査・面接を行っています!

受入条件が整えば退院可能な精神障害者を把握し、長期入院精神障害者の退院支援を促進するため、平成29年度より岡山市内の精神科病床を有する8病院にご協力いただき、調査を行っています。

【平成29年度 調査概要】

- 調査対象病院** 岡山市内の精神科病院(8病院)
- 調査方法** 調査票(電子ファイル)を各病院に配布し、個別に回収(回答率100%)
- 調査時期** 平成29年12月1日～平成29年12月31日
- 調査対象者** 1年以上入院する患者
- 調査時点** 平成29年10月31日
- 調査項目** 1)氏名 2)性別 3)生年月日 4)疾患名(選択式)
5)日常生活に支障をきたしている身体疾患 6)日常生活における介助の必要性
7)入院形態 8)在院期間 9)生保受給の有無
10)主治医から見た現時点での退院可能性 11)退院阻害要件(選択式・3つまで)

精神科病院入院中から退院支援を行っています!

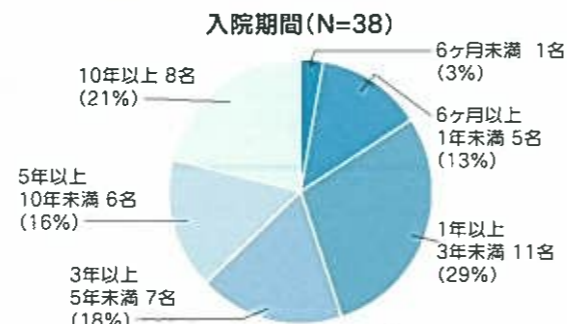
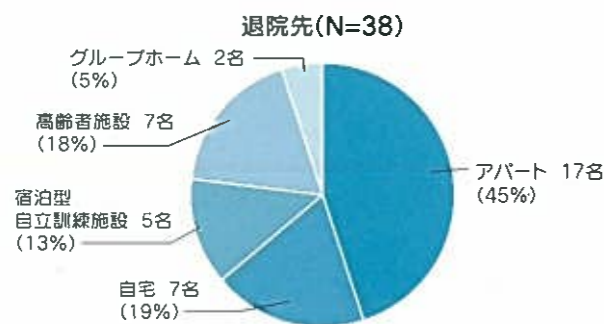
長期入院精神障害者の中には、病院以外での生活がイメージできなかったり、地域生活に不安を感じていたりするために退院意欲が低下している方もいます。このように退院意欲が低下した方に対して、地域体制整備コーディネーターが入院中から院内面接や外出支援を行うことで、退院意欲の向上を図っています。退院意欲が高まると、本人のペースに合わせて生活スキルの向上のための練習や住居探し、在宅サービスの手続きなどの生活環境の調整を行っています。退院後は地域定着を図るため、事業所等と協力して、訪問による生活支援や通院支援なども行っています。



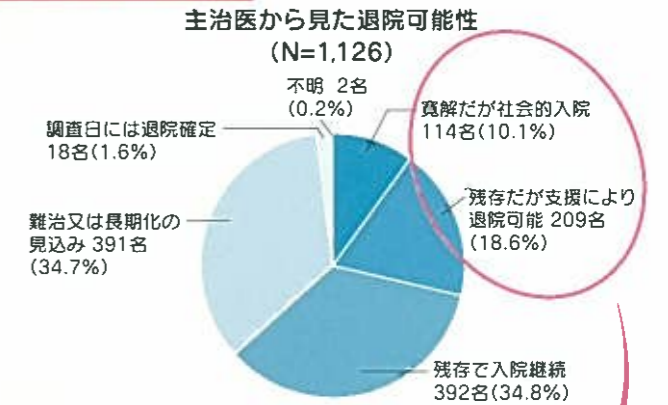
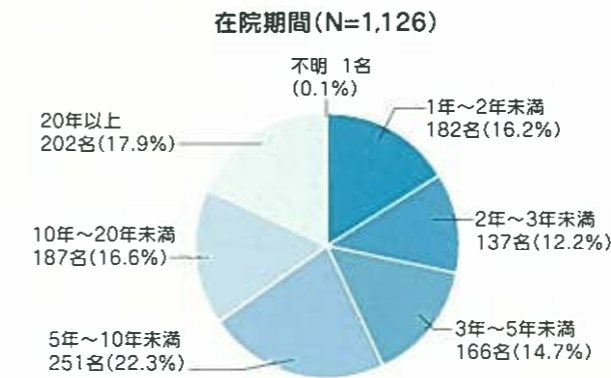
退院者の状況

平成22～29年度の間で、38名の長期入院精神障害者の方が退院されました。
退院先は、アパートや自宅、宿泊型自立訓練施設などで、アパートを借りて一人暮らしを始めた方が一番多く17名(45%)でした。退院された38名の入院期間を見ると、1年以上3年未満の方が

11名(29%)で、10年以上入院していた方は8名(21%)でした。退院された方は、ホームヘルプサービスなどの社会資源を利用したり、地域活動支援センターや就労支援のための事業所などに通ったりしながら、地域での生活を継続されています。



調査結果 岡山市内の1年以上の長期入院患者 1,126名



「寛解だが社会的入院」 114名
「残存だが支援により退院可能」 209名 } 323名

323名を支援対象と考え、そのうちまずは60歳未満(調査時点)54名について、病院に問い合わせをさせていただきました。そのうち、24名について退院支援の希望がありました。

平成30年7月より、24名の方と面接し、そのうち、21名の方の支援を継続しています (H30年11月時点)

今後について

当センターでは、今後も市内の精神科病院や事業所等と協力して、長期入院精神障害者の退院支援を進めていきたいと考えております。

そのため、長期入院患者病院調査を継続して行う予定です。関係者の皆様にはご多忙のところ大変恐縮ですが、今後もご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

